

木村舗装株式会社

2024年度

環境経営レポート

(対象期間:2024年5月1日~2025年4月30日)



発行日:2025年6月10日

発行責任者:野村孝広

1 取組対象組織・活動

事業者名及び代表者名

木村舗装株式会社
代表取締役 木村 毅

所在地

本社 〒520-3221 滋賀県湖南市三雲126-1
甲賀営業所 〒528-0015 滋賀県甲賀市水口町酒人90-1

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先(電話番号等)

環境管理責任者 工事部:野村孝広
連絡先: 090-2287-1359
工事部責任者 工事部長:野村 孝広
連絡先: 090-2287-1359
総務部責任者 総務部:木村 みわ
連絡先: 090-7482-5028

事業活動の内容(認証・登録範囲)

土木工事業、舗装工事業、水道施設工事業

事業の規模

売上高 388 百万円/2024年
工事件数 159 件/2024年
全従業員 10 名

事業組織

面積:m ²	本社	甲賀営業所
事務所	164	45
倉庫	252	0
駐車場面積	278	0
資機材置場面積	1,839	0
従業員 名	8	2
認証・登録	○	○

過去3年間の環境負荷の実績

	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素の排出量	kg-CO2	212,782	217,610	198,550
二酸化炭素排出量原単位	kg-CO2/百万円	546	568	512
廃棄物の排出量	t	572	89	968
水の使用量、排水量	m3	416	414	300

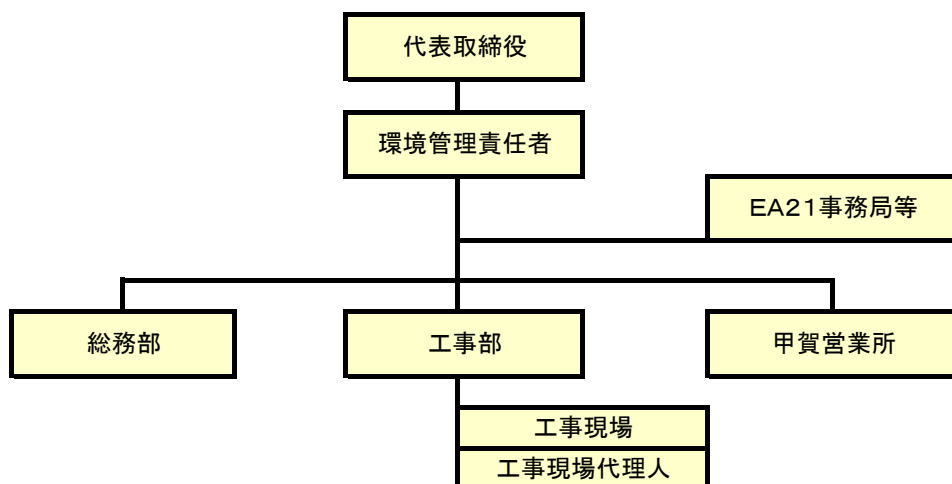
* 環境活動期間は5月1日から翌年4月30日です

* 関西電力の調整後排出係数は2017年度の0.418kg-CO2を3ヶ年間固定します

* 化学物質の取り扱いはありません

2 環境経営組織図及び役割、責任、権限表

EA21実施体制組織図



※全従業員は、当社に構築された環境経営システムを理解し、策定された環境経営方針の下、環境経営目標の達成に向けて、環境経営計画に基づき、一致協力して環境取組を

役割、責任及び権限一覧

担当	内容
代表取締役	①環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 ②環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する。 (資源には、人材、設備、費用、時間、専門的な技能、技術を含む。) ③環境管理責任者を任命する。 ④環境経営方針の策定・見直し及び従業員への周知を行なう。 ⑤代表者による全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者	①環境経営システムを構築し、実施し、管理する。 ②作成された環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し承認する。 ③法規制等の遵守状況をチェックする。 ④環境経営方針及び自己チェック等に基づき環境経営目標を設定し、作成された環境経営計画を確認し承認する。 ⑤環境活動の取組状況を確認し、環境経営目標の達成状況を評価する。 ⑥問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行なう。 ⑦環境活動の取組結果を代表者へ報告する。 ⑧EA21に関する運用管理の体制を構築し、各責任者を任命する。
各部門長及び 工事現場代理人	①責任範囲の環境経営目標及び環境経営計画の実施とEA21事務局への達成状況の報告。 ②責任範囲の問題点の発見、是正、予防処置。
EA21事務局	①環境経営システム運営のすべての事務を行なう。 ②環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する。 ③「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、環境管理責任者へ報告する。 ④環境経営計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告する。 ⑤文書及び記録の管理保管。 ⑥外部コミュニケーションの窓口。 ⑦内部コミュニケーションの運営管理。 ⑧従業員に対する教育訓練の実施。 ⑨特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録。 ⑩環境経営レポートを作成する。
全従業員	①環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ②決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

木村舗装株式会社

環境経営方針

<環境理念>

当社は滋賀県内で舗装工事を主体とした建設工事を行っています。環境経営システムを構築・運用することで社内全員が環境問題に取り組みをし、環境負荷低減を目指してエコ活動していきます。

<環境保全への行動指針>

環境への取組を進めるため、以下の事項に取り組んでいきます。

1. 当社が守らなければならない環境関連法規や条例等を明らかにし、これを厳守します。
2. 環境経営目標を定め、継続的改善を行います。
3. 事業活動に伴う環境影響を低減するため、以下の活動を実施します。

①建設現場ではガソリン・軽油・LPGを、事務所では電気・灯油を削減して、二酸化炭素の排出量を低減します。

②建設廃棄物は分別を徹底して、建設リサイクルを推進します。

③事務所及び建設現場の水使用量を削減し、建設現場では汚濁水防止に努めます。

④環境に配慮した低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車の使用に努めます。

⑤地域の環境美化活動に積極的に参加します。

4. 全従業員にこの環境経営方針を周知させます。

制定日：2011年9月1日

改訂日：2013年6月1日

改訂日：2017年6月1日

改訂日：2019年5月1日

代表取締役社長

木村 毅

3 環境経営目標とその実績

2019年度の実績を自己チェックにより把握し、その結果を基準値として、2023年度から2025年度までの目標を下記の通り設定し、環境活動に取り組んでいます。尚、このレポートでは、2024年5月1日から2025年4月30日までの運用実績について取りまとめました。

環境経営方針	取組項目	年度 単位	2024年度 取組年 2024年5月～2025年4月		次年度	中長期		
			2019年	(目標)	(実績) 削減率は基準 年比	2025年	2026年	
			(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	
①建設現場ではガソリン・軽油・LPGを、事務所では電気・灯油を削減して、二酸化炭素の排出量を低減します。	電力使用量の削減 (単位：kWh)	使用量	21,795	20,705	21,689	21,590	21,590	
		(kg-CO2)	9,110	8,655	9,066	8,564	8,564	
		%	100%	95%	99.5%	94%	94%	
	ガソリン使用量の削減 (単位：L)	使用量	4,963	4,715	5,328	4,665	4,916	
		(kg-CO2)	11,514	10,938	12,361	10,823	10,823	
		%	100%	95%	107.4%	94%	94%	
	軽油使用量の削減 (単位：L) 建設現場	使用量	39,376	37,407	34,377	39,006	39,006	
		(kg-CO2)	101,590	100,625	88,693	100,635	100,635	
		%	100%	95%	87.3%	94%	94%	
	灯油使用量の削減 (単位：L) 建設現場	使用量	1,733	1,646.4	1,630	1,717	1,717	
		(kg-CO2)	4,315	4,099	4,059	4,275	4,275	
		%	100%	95%	94.1%	94%	94%	
	LPG使用量の削減 (単位：kg) 建設現場	使用量	25,600	24,320	27,040	24,064	24,064	
		(kg-CO2)	76,800	72,960	81,120	72,192	72,192	
		%	100%	95%	105.6%	94%	94%	
	A重油使用量の削減 (単位：L) 建設現場	使用量	1,200	1,140	1,200	1,128	1,128	
		(kg-CO2)	3,252	3,089	3,252	3,057	3,057	
		%	100%	95%	100%	94%	94%	
	二酸化炭素排出量の削減		(kg-CO2)	206,582	200,367	198,550	199,546	199,546
			%	100%	95%	96.1%	94%	94%
	二酸化炭素排出量売上百万円当り原単位削減		%	-	-	96.4%	94%	94%
		CO2/百万円	530.9	95%	511.7	499	499	
②建設廃棄物は分別を徹底して、建設リサイクルを推進します。	分別及び建設リサイクルの推進 (単位：%) 建設現場	(%/年)	100%	80%	100%	80%	80%	
		%	-	-	125.0%	-	-	
③事務所及び建設現場の水使用量を削減し、建設現場では汚濁水防止に努めます。	事業所利用水の節水 (単位：m ³)	(m ³ /年)	415	394	300	390	390	
		%	100%	95%	72.3%	94%	94%	
	オイル吸着材の設置と監視など適正管理 (単位：%) 建設現場	(%/年)	100	100	100	100	100	
		%	-	-	100%	-	-	
④環境に配慮した低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車の使用に努めます。	環境配慮施工の推進 (単位：%) 建設現場	(%/年)	100	100	100	100	100	
		%	-	-	100%	-	-	
⑤地域の環境美化活動に積極的に参加します。	地域の美化活動に参加する (単位：回)	(回/年)	12	12	12	12	12	
		%	100%	100%	100%	100%	100%	

目標の説明や補足事項

- 購入電力の調整後排出係数は、関西電力の2017年度の0.418kg-CO₂/kwhを固定する
- 廃棄物排出量は、事業活動からの廃棄物に対して総排出量で把握し、建設リサイクル率に取組む
- 水使用量については、事務所敷地内における水使用量の削減について実施する。また建設現場からの汚水・濁水防止監視を実施する
- 化学物質の取扱いは無いので、目標に掲げない
- 環境配慮施工では、低騒音・低振動型重機、排ガス規制適合車等の環境配慮車輛を使用する
- 社会貢献活動は淡海エコフオスター活動に参加し実施する
- 上記の目標のほか、作業場の環境及び品質安全向上のために3S活動（整理、整頓、清掃）に取り組む
- 2025年、2026年の目標は、仮目標です。

4 環境経営計画

環境経営方針	取組項目	環境経営計画の内容	責任部門・担当者
①建設現場ではガソリン・軽油・LPGを、事務所では電気・灯油を削減して、二酸化炭素の排出量を低減します。	電力使用量の削減 (単位：kWh)	① 不用時の消灯 ② 機械設備・OA機器などのスイッチオフ ③ エアコンの温度管理 (夏季28℃±1℃)	事務部
	ガソリン使用量の削減 (単位：L)	① 不要積載物の有無、タイヤ空気圧の確認 ② 暖機運転・アイドリングストップ ③ エコドライブの励行 ④ 建設重機の環境に配慮した稼働	工事事部
	軽油使用量の削減 (単位：L) 建設現場		
	灯油使用量の削減 (単位：L) 建設現場		
	LPG使用量の削減 (単位：kg) 建設現場		
②建設廃棄物は分別を徹底して、建設リサイクルを推進します。	分別及び建設リサイクルの推進 (単位：%) 建設現場	廃棄物 ① 廃棄物を分別し、リユース・リサイクルを徹底する。 ② 無駄な資機材を購入しない。 ③ 使用済みコピー用紙を再利用する。	工事事部
③事務所及び建設現場の水使用量を削減し、建設現場では汚濁水防止に努めます。	事業所利用水の節水 (単位：m)	① 洗車の水使用量を減らす。 ② 水を流しながらの洗ひ物はしない。	工事事部
	オイル吸着材の設置と監視など適正管理 (単位：%) 建設現場	① 濁水防止の適正監視する	工事事部
④環境に配慮した低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車の使用に努めます。	環境配慮施工の推進 (単位：%) 建設現場	① 環境配慮施工の維持 ② 低騒音・低振動型重機の使用 ③ 排ガス規制適合車の使用	工事事部
⑤地域の環境美化活動に積極的に参加します。	地域の美化活動に参加する (単位：回)	① 地域の清掃活動に参加する。	営業部

取組の紹介

- 1 淡海エコフオスター活動とは、滋賀県と協定を結びボランティアで行う地域の清掃活動です。
- 2 滋賀県建設業協会主催の地域貢献による清掃・草刈活動に意欲的に参加する。

5 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

評価：○達成 △達成率110%以内 ×未達成

環境経営方針	取組項目	年度	2024年度 取組年 2024年5月～2025年4月		評価	取組の評価
			(目標)	(実績) 削減率は基準 年比		
	電力使用量の削減 (単位：kWh)	使用量	20,705	21,689	△	事務所ではエアコンの温度調整、不在時の電気消灯を心がけた。現場では、夏季作業にて熱中症予防としてエアコンを使用するが適度に抑制に努めるように実施した。
		(kg-CO2)	8,655	9,066		
		%	95%	99.5%		
①建設現場ではガソリン・軽油・LPGを、事務所では電気・灯油を削減して、二酸化炭素の排出量を低減します。	ガソリン使用量の削減 (単位：L)	使用量	4,715	5,328	△	使用機械、車両の不十分な場合「アイドリングストップ」を実施し達成した。また、冬季時期においても機械の暖機運転は必要だが過度な暖機は避けている。
		(kg-CO2)	10,938	12,361		
		%	95%	107.4%		
	軽油使用量の削減 (単位：L) 建設現場	使用量	37,407	34,377	○	
		(kg-CO2)	100,625	88,693		
		%	95%	87.3%		
	灯油使用量の削減 (単位：L) 建設現場	使用量	1,646	1,630	○	
		(kg-CO2)	4,099	4,059		
		%	95%	94.1%		
	LPG使用量の削減 (単位：kg) 建設現場	使用量	24,320	27,040	△	
		(kg-CO2)	72,960	81,120		
		%	95%	105.6%		
	A重油使用量の削減 (単位：L) 建設現場	使用量	1,140	1,200	△	
		(kg-CO2)	3,089	3,252		
		%	95%	100.0%		
二酸化炭素排出量の削減		(kg-CO2)	200,367	198,550	△	
		%	95%	96.1%		
二酸化炭素排出量売上百万円当り原単位削減		CO2/百万円	95%	512	○	
		%	99%	96.4%		
②建設廃棄物は分別を徹底して、建設リサイクルを推進します。	分別及び建設リサイクルの推進 (単位：%) 建設現場	(%/年)	95%	100%	○	廃棄物の分別・リユース・リサイクルを徹底した
		%	-	125.0%		
③事務所及び建設現場の水使用量を削減し、建設現場では汚濁水防止に努めます。	事業所利用水の節水 (単位：m ³)	(m ³ /年)	394	300	○	雨水タンクの使用により洗車した
		%	95%	72.3%		
	オイル吸着材の設置と監視など適正管理 (単位：%) 建設現場	(%/年)	100	100	○	濁水監視ができ目標達成できた
		%	-	100%		
④環境に配慮した低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車の使用に努めます。	環境配慮施工の推進 (単位：%) 建設現場	(%/年)	100	100	○	低騒音・低振動型重機、排ガス規制適合車を使用した
		%	-	100%		
⑤地域の環境美化活動に積極的に参加します。	地域の美化活動に参加する (単位：回)	(回/年)	12	12	○	毎月の清掃活動に参加し目標達成できた
		%	100%	100%		

今年度の主な環境経営計画の実績・取組結果の内容

- 1 二酸化炭素排出量削減取り組みでは、「アイドリングストップ」やエコドライブ、重機の効率的な稼働等の目標達成手段を実施した
- 2 廃棄物は総量を把握し、分別を実施して削減及び建設リサイクルに努めた
- 3 水使用量の削減では車輛の洗車の使用量削減や流し放して使用しないように努めた。また建設現場では濁水防止監視を実施した
- 4 環境配慮施工でな低騒音・低振動型重機や排ガス規制適合車を使用した
- 5 環境美化活動は計画通り淡海エコフロンティア活動の美化活動に参加した

次年度の主な環境経営計画の内容

- 1 二酸化炭素排出量削減取り組みでは、「アイドリングストップ」やエコドライブ、重機の効率的な稼働等の目標達成手段を実施する
- 2 廃棄物は総量で把握し、分別を実施して削減及び建設リサイクルに努める
- 3 水使用量の削減では車輛の洗車の使用量削減や流し放して使用しないように努める。また建設現場では濁水防止監視を実施する
- 4 環境美化活動は計画通り淡海エコフロンティア活動に参加する
- 5 環境経営目標の達成取組みと共に、作業場の環境及び品質安全向上のために3S活動（整理、整頓、清掃）に取組み、意識を持って全員で実践する

6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反、訴訟はありません。又、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘はありません。

適用される法規制等と遵守状況

法規制等の名称	該当する要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	遵守
自動車リサイクル法	廃自動車のリサイクル券	遵守
家電リサイクル法	家電リサイクル券	遵守
騒音規制法	対象特定施設の届出、規制値の遵守	遵守
振動規制法	対象特定建設作業の届出、規制値の遵守	遵守
消防法	対象危険物保管の届出	遵守
フロン排出抑制法	第1種特定製品の簡易・定期点検、引渡し	遵守
地域ごみ出しルール	一般廃棄物の分別、収集、排出	遵守

注：適用される法規制等と遵守状況は、環境関連法規等の遵守状況のチェック結果に基づき記載します。

7 代表者による全体の評価と見直し・指示

現場内にて、アイトリングストップを実施徹底している。施工量により二酸化酸素量の排出増減は仕方がないが適正機械により配慮し施工するようにした。また、従業員全員で環境への取組は実施されており、環境経営方針、実施体制に変更はないが、環境経営目標を新たに策定して環境経営計画で取組する。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/>	変更なし	<input type="checkbox"/>	変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/>	変更なし	<input checked="" type="checkbox"/>	変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/>	変更なし	<input type="checkbox"/>	変更あり